

(様式第1号)

研究No. (記載不要)	18 - デ研 - 1
-----------------	-------------

平成 18 年度配分 研究成果の概要

研究名	大学院と小学校協働による都市空間解析				
配分を受けた特別研究費	デザイン研究科長特別研究費		2,598	千円	
研究者氏名 (代表者)	学部名	学科名	職	氏名	共同研究の場合の分担
	デザイン学部	空間造形学科	教授	寒竹伸一	
共同研究者					
発表の方法 (予定で可)	1 紀要		号数	第 年 号 (年 月発行)	
	2 学会等での発表 学会等名:		発表日 (発表 予定日)	平成 年 月 日	
	3 その他 発表の方法:アジア近代建築ネットワーク 国際会議東京大会		発表日 (発表 予定日)	平成 18 年 11 月 4 日	

注:配分を受けた翌年度の6月末までに提出

(研究の目的等)

都市空間に関する小学校教育において、3年社会科でのまち歩き体験は、表層的で小学校内での閉じた運営となっていることが多い。また、現代の日本の都市は、経済成長を優先するあまり、労働と消費のための、大人優先の空間となってしまっている。小学生は、自分のまちの歴史を知り、理解し、将来の生活へとつなげるためにも、どのような都市デザインが必要なのか、深く考える契機を必要としている。地域に開かれた大学院として、どのようなデザインが必要かを、今までのように小学校だけで考えさせるのではなく、都市空間に関する体系知を有する当大学院と小学校が協働することによって双方ともに、高次の都市空間認識へと到達する手法を探りたい。この方法論の確立がこの研究の目的である。

(研究の実施方法等)

大学院デザイン研究科都市デザイン系院生とデザイン学部空間造形学科の学生を中心とした18名のスタッフと浜松市立船越小学校6年生40名が8つのチームを編成。そして、小学生5名(小さなまちの構成員)と大学院スタッフ2名(都市デザイン専門家)からなる各々のチームが「わたしたちのまち」をテーマとして11回のスタジオ型ワークショップを行ない、それぞれ別の視点から、まちの構造を読み解き、各々の「わたしたちのまちの姿」を作成し、静岡文化芸術大学にて発表し、研究科長、船越小学校長、東京大学村松准教授による審査を受けた。優秀2チームが、秋に東京で開催されたmAAN(アジア近代建築ネットワーク)コンペティションに参加し、第1回グランプリを獲得。

(得られた成果等)

1. 地域に生きる大学院として、地域との協働及び、都市空間デザイン、建築空間デザインの専門家として地域社会への貢献の必要性を院生、学生ともに実践することができた。
2. 次世代への責務をはたすサステイナブルな大学院としての活動を確立することができた。
3. 大人の視点でしか語られてこなかった都市空間へのユニバーサルな新しい視点を提示することができた。
4. mAANの第6回国際会議でのグランプリ獲得により本大学院の存在を広く世界へ発信することができた。
5. 将来のデザイン系人材の掘り起こしと育成にとりかかることができた。